部活動改革と心田開発　第六回

～ 新たな領域に歩を進める地域部活動 ～

齊藤 勇

二年余りの地域部活の集大成

六月下旬、本連載の初回から紹介している日本初の文化系・地域部活動 掛川未来創造部パレットは、部員自らの企画制作で部内発表会「ブルーム」(bloom) を掛川市生涯学習センター・第四会議室にて開催しました。ブルームとは、最盛期を迎えた花という意味を持つ言葉、企画した部員の発案です。発表会の形には決まりがないため、自由な発想で企画できます。ダンスパフォーマンス、アート作品、自らプログラミングしたゲームといった過去にもあった発表のほか、今回、二年余りの活動の振り返りを三年生の部員から複数発表があったことが印象的でした。

それぞれ、自ら取り組んだ内容を一通り振り返りながら、自分自身が成長したと思う点を複数あげていました。中には、演劇や声劇に取り組んだ部員は、自分が過去演じた役の声と口調、その時使ったイラスト等をスライドに織り交ぜながら、自ら台本を作り、一人十数役を変幻自在な声を駆使した発表は圧巻。当日会場で見るまで私も内容は知りませんでしたが、自由な発想と自分の強みを活かし、実に工夫された発表に心底感服しました。

多彩な声を駆使して発表する部員

発表に使用したスライドの一部

昨今、教育界の中で重要視されている「メタ認知」が育まれている事象の一つではないかと感じました。自分を客観視することで、どのように成長してきたかを自分で評価できる。より高い視点から自分や物事を認知することをメタ認知と言われています。

三年生にとっては、入部から二年と数カ月が経ち、ブルームの名の通り、中学生活の最盛期に咲かせた花の数々を発表することで、百花繚乱の成果を示した一日になりました。

地域クラブへの展開と共に部員が減少

二〇一八年創部のパレットは、三期生を迎える二〇二〇年より、市教育委員会の理解と支援により「掛川の中学生の部活動には、学校部活動と地域部活動の二つがあります」という形の広報を行い、小学六年生が出席する中学校説明会において、部活動一覧の中に地域部活動が示されるようになり、認知度があがっていきました。「中学に行ったら部活は何に入ろうかな？」という最初の選択の中に在ることで、三期生と四期生は市内九校のうち、七校から一学年二十名ほどの部員が入部。最も大勢いた四年目には、五十名近い規模になり、活動ジャンルも多彩になりました。

その頃、各地のモデル地域で部活動の地域移行の検討が始まる中、掛川市は全国的にもいち早く、部活動の地域展開を推進。令和八

年夏には学校部活動を廃止し、生涯学習の理念のもと、地域クラブを展開するという方針を打ち出し、公言しています。ここまで明確に部活動廃止を宣言する自治体は稀で大変注目を集めています。廃止した後の新たな地域クラブを市のスポーツ協会や文化財団が運営する形で選択肢を増やしていく方向性を提示し、昨年度から市によるクラブの新設が始まっています。同時に、民間団体が主催運営する活動は申請を行って公認クラブとなり、地域展開の一翼を担う体制になります。これらのクラブは、小学生から入会対象とし、活動日も学校部活動と重複を避ける団体が多く、中学生の部活動の最初の選択にたとえ入らなくても、維持できる可能性は高まりますが、パレットのように中学校の教育課程との連動を図り、中学生のみを対象、活動日も学校部活動と同じ日にしている地域部活は、部活動の最初の選択に入らなければ、選択されない確率が増します。さらに、地域クラブ自体の周知がすぐに浸透しないこと、令和八年夏までは学校部活動が継続されることも急激な部員減少の要因として考えられます。

全国初 生涯学習都市宣言を行った街

私は掛川の地域部活動の当事者の一人であると共に、全国の学校部活動の地域移行（展開）の情報発信を最大の主軸事業としている立場から思うことがあります。

生涯学習の理念を掲げ、学校部活動を廃止した後は、中学年代に限定せず、大人も含めた幅広い世代が参加できる地域クラブが多種多彩に街に広がっていく方針は、大変意義深いと考えます。前・大日本報徳社の社長であり、七期二八年務めた榛村純一市長が生涯学習都市宣言をした掛川市だからこそ出来る大事業ではないかと思います。

パレットは、主催するＮＰＯ法人 日本地域部活動文化部推進本部（略称・ポッカ）の理念と方針により、中学校の教育課程との連動を重要視、中学生自身の自主性と主体性を最大限尊重、見守りスタッフのみが常駐、指導者を置かず、部活動が本来有する意義と価値を学校の枠を越えた地域で展開することを追究しているため、指導者を含め、世代を超えた地域クラブとは性格が異なりますが、私は掛川市の方針を大いに支持します。

街づくり共創スペースに活動拠点を移転

ブルーム終了を機に三年生は受験に向けた休部期間に入り、七月からは二学年で合計六名となり、一部屋で行う小規模な部活になりました。部費×部員数の予算内で活動を行うパレットでは、会場費が重くのしかかるなか、掛川市中心商店街の一角、元・旅館（桃源郷）の跡地に改装オープンしたポートカケガワの共催で、会場を提供いただけることになりました。

現在進行形で街づくりが進展していく現場で活動できることで、様々な地域事業と連動し、未来創造部の名に相応しい地域部活の真価を将来的に発揮できるのではないかと期待しています。

７月４日 活動場所移転 初日
（ポートカケガワにて）

今回、地域芸術祭のアートプロジェクトについて報徳の観点からふれる予定でしたが、六月の発表会の成果、七月からの拠点移転と新展開があり、次回とさせていただきます。